

令和6年第10回
教育委員会定例会教育長報告

令和6年10月18日（金）

- | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|
| 1 | 令和6年度学校選択制申請状況（令和7年度入学）について | 資料1 |
| 2 | 第48回市立中学校総合体育大会の結果について | 資料2 |
| 3 | 令和6年度武蔵村山市立学校 授業改善推進プランについて | 資料3
(別冊) |
| 4 | 第55回市民文化祭の開催について | 資料4
(別冊) |
| 5 | 栄村との姉妹都市交流事業の開催について | 資料5 |
| 6 | 令和6年度武蔵村山市少年・古希軟式野球チーム親善試合事業の開催結果について | 資料6 |
| 7 | 令和6年度少年少女スポーツ大会第41回少年少女サッカー大会の開催について | 資料7 |
| 8 | 図書館除籍資料の無償配布について | 資料8 |
| 9 | その他 | |

令和6年度学校選択制申請状況（令和7年度入学）について

申請期間：令和6年9月1日～令和6年9月30日

令和6年9月30日現在

(単位：人)

○転入・転出状況

選択校 指定校	第一中学校	村山学園 第二中学校	第三中学校	大南学園 第四中学校	第五中学校	転出計
第一中学校		0	15	9	1	25
村山学園 第二中学校	0		1	1	0	2
第三中学校	2	0		1	0	3
大南学園 第四中学校	1	0	5		0	6
第五中学校	41	0	2	0		43
転入計	44	0	23	11	1	79

○主な理由

理 由	友人関係	部活動	通学距離	進学実績	その他	その他の主な理由
件 数	39	14	8	4	14	・伝統や校風 ・学校案内パンフレット ・兄弟関係

○令和7年度入学予定者数

学校名	第一中学校	村山学園 第二中学校	第三中学校	大南学園 第四中学校	第五中学校	計
人数	155	52	103	93	162	565
クラス数予定	5	2	3	3	5	18
(令和6年度クラス数)	(6)	(2)	(4)	(3)	(5)	(20)

令和 6 年度第 4 8 回中学校総合体育大会結果

1 大会期間 令和 6 年 7 月 1 5 日 (月) ～ 令和 6 年 1 1 月

2 種 目 7 種目 参加人数 5 7 5 人

種 目			大 会 日 程	参加人数等	試 合 形 式
1	ソ フ ト テ ニ ス	男子	7 月 2 0 日 (土)	2 2 人	ダブルス戦 予選リーグ戦 決勝トーナメント戦
		女子	7 月 2 7 日 (土)	2 4 人	
2	バスケットボール	男子	9 月 1 5 日 (日)	各 5 チーム 1 3 6 人	リーグ戦
		女子	9 月 8 日 (日)	各 3 チーム 1 0 5 人	リーグ戦
3	サ ッ カ ー	3 年生	7 月 1 4 日 (日)	7 0 人	3 年生の部 トーナメント戦
		2 年生	1 1 月に延期	未定	2 年生の部 トーナメント戦
4	野 球	—	8 月 2 1 日 (水)	3 チーム 4 5 人	リーグ戦
5	バ ド ミ ン ト ン	男子	7 月 2 1 日 (日)	2 9 人	ダブルス・シングルス トーナメント戦
		女子		4 2 人	
6	剣 道	男子	7 月 1 5 日 (月)	8 人	リーグ戦 準決勝以降トーナメン ト戦
		女子		6 人	
7	卓 球	男子	7 月 1 5 日 (月)	1 0 チーム 8 8 人	男子団体 トーナメント戦 女子団体 リーグ戦
		女子			

3 種目別成績一覧 (裏面)

令和6年度 中学校総合体育大会(第48回)成績

種 目		優勝	準優勝	第三位	会 場
ソフトテニス	男子ダブルス	村山学園	五中	村山学園 五中	村 山 学 園 テ ニ ス コ ー ト
	女子ダブルス	村山学園	村山学園	村山学園 五中	
バスケットボール	男 子	一中	三中	大南学園	村 山 学 園 体 育 館
	女 子	三中	一中	五中	
サ ッ カ ー	3 年	一中	大南学園	三中 大南学園	大 南 学 園 第 四 中 学 校 校 庭
	2 年	11月に延期			
野 球		一中・東大和 市立第三中学校(合同)	村山学園・三中・大南学園 (合同)	五中	総 合 運 動 場 野 球 場
バドミントン	男子シングルス	三中	大南学園	大南学園	村 山 学 園 体 育 館
	女子シングルス	三中	三中	大南学園	
	男子ダブルス	大南学園	大南学園	一中	
	女子ダブルス	三中	一中	大南学園	
剣 道	個 人（男 子）	大南学園	一中	三中 大南学園	第 一 中 学 校 武 道 場
	個 人（女 子）	一中	一中	一中 一中	
卓 球	団 体（男 子）	大南学園A	一中A	五中A	総 合 体 育 館
	団 体（女 子）	大南学園A	五中	一中	
	1年シングルス	大南学園	大南学園	一中 大南学園	
	2・3年シングルス 男 子	大南学園	大南学園	一中 五中	
	2・3年シングルス 女 子	五中	大南学園	大南学園 大南学園	

令和6年度 武蔵村山市立学校 授業改善推進プラン



令和6年10月18日
武蔵村山市教育委員会

— 目次 —

1	第一小学校	1
2	第二小学校	5
3	第三小学校	7
4	第八小学校	9
5	第九小学校	11
6	第十小学校	13
7	雷塚小学校	15
8	村山学園	19
9	大南学園第七小学校	25
10	大南学園第四中学校	27
11	第一中学校	29
12	第三中学校	32
13	第五中学校	34

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字や基本的な語彙、文章の構成など日常生活に必要な国語の知識や技能を身につける。	自分の考えや思いを的確に話したり、書いたりする力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 学習した漢字を文の中で使用することができにくく、語彙も豊かではない。 イ 分かりやすく自分の考えを話したり、読み手を意識して書いたりすることができにくい。	ア 大単元のはじめに辞書を用いて難語句の意味調べをすることで語彙を増やしたり、言葉の正しい使い方を知ったり「させている」。 イ 発表するときや書くときに理由や例を添えて伝えるためのパターンを提示している。	
第5学年	ア 漢字の書き取りを苦手としている児童が多く見られる。 イ 文章問題で問題文を確実に読み取ることができない児童が多い。	ア 授業の最初に小テストや確認の時間をとる。自分自身がどの漢字が苦手なのかを分かっていない児童が多いため、ポイントや、つまづきやすい箇所を全体で共有していく。 イ 問題文を読むときのポイントや、着目すべき言葉を一緒に確認していく。時間をとって問題文を読ませていく。	
第6学年	ア 主語と述語、話し言葉と書き言葉が理解できていない児童が見られる。 イ 論理的で具体的な文章を書くことが苦手な児童がいる。	ア いろんな例文で確認する。プリント学習等で、言葉の学習を繰り返し行い、事前事後の指導を充実させる。 イ 相手意識を明確にして書くことを習慣付けさせる。良い文章を読んだり試写したりすることで、文章の構成や表現を習得させる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：文書作成ソフトを活用し、下書きを作成することで推敲や構成の変更をしやすくしたり、学習支援ソフトを活用し、考えを共有したりする。 5年：自分の意見を伝えるときに、どのような伝え方をしているか確認するために、タブレットで撮影し、振り返りができるようにする。 6年：二次元コードを活用して、自分で手本となる動画を視聴できるようにする。班活動では、プレゼンテーション作成ソフトを活用し考えをまとめさせる。	4年：ねらいに沿った学習の振り返り・次時につながる振り返り・授業の中では出なかった読み取り等を紹介しながら学習を進めている。 5年：学習する単元のゴールを児童に伝えて、見通しをもたせる。自分の考えを表現する機会を増やす。 6年：学習のめあてや流れを視覚化し、見通しをもたせる。PDCA サイクルで学習を進め、学習を調整する力や粘り強く取り組む習慣を身に付けさせる。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
正確に計算したり、図形に表したりするなど、日常の事象を数理的に処理する技能を身につけるようにする。	日常の事象を数理的に捉え、式に表したり、表やグラフに表したりする力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 計算力はあるが、桁の大きい数や小数のしくみが理解できていない児童が見られる。 イ 問題文を読んでも、立式できない児童が見られる。	ア 大きい数については4桁ずつ補助線を入れて読むようにすること、小数については小数点を確認させること等をおして位を意識して課題に取組ませるようにする。 イ 演算決定の際にカギとなるキーワードを図などと連携させて確認して、課題に取組ませるようにする。	
第5学年	ア 2けたでわるわり算の筆算が習熟できていない児童が見られる。 イ 除法の立式において、わられる数とわる数を決められず、立式できない児童が多い。	ア 繰り下がりのあるひき算や1桁×1桁の100マス計算を随時行い、簡単な計算のスピードを高めることで、自信をもって計算できるようにさせる。 イ 文章題を解く際には、数直線を書かせ、それを活用して、正しく立式できるようにする。	
第6学年	ア 基礎的な加減乗除は比較的できるが約分が苦手な児童が多い。 イ 立式はできるが、求めた答えの単位を間違える児童が多くみられる。	ア 計算後に振り返りをさせ、その答えでいいかどうかもう一度確認させるようにする。 イ 分かっていることは何か、求めたいことは何かを整理してから、問題に取り組ませ、立式するように指導する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめを大型提示装置に提示する。児童用教科書の二次元コードを活用して、まとめの課題に取り組ませる。 5年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめを大型提示装置に提示する。児童用教科書の二次元コードを活用して、作図の課題に取り組ませる。 6年：指導用デジタル教科書を活用して、課題や図、まとめを大型提示装置に提示する。児童用教科書の二次元コードを活用して、表やグラフの作成に取り組ませる。	4年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保し、自分の言葉で振り返りを記入する時間を確保する。 5年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保するとともに、多面的に自分の考えを表現する機会を増やす。 6年：その時間に学んだことを振り返る時間を確保するとともに友達の影響から学び合う機会を増やす。

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校（ 杉の子学級 ）

目指す授業	みんなで創る「誰一人取り残さない学校」を実現するため ○ 一人一人の特性に合わせたためあてを設定し、適切な評価と支援を行う授業。 ○ 小さな「わかった」の積み重ねにより、成長を実感できる授業。 ○ 児童に主体的に考えさせ、自らの考えを表現する力を高める授業。		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・ 低学年、中学年は、「聞く」活動について、力が定着しにくい。 ・ 「読む」「書く」活動について、発達段階の差が大きい。	・ 聞くために指導者や発表者に注目させる、目を話し手に向けるなどの指導を、杉の子学級担任が共通理解し、低学年から積み重ねていくようにする。 ・ 同じ教材を使った一斉授業では、個別のワークシートを工夫し、興味をもって取り組めるようにしていく。「書く」学習については、個別指導の時間を充実させる。	
算数	・ 学年内でも個々の学力差が大きい。 ・ 数の概念やかけ算、わり算等の理解が難しい。 ・ 理解の定着に時間がかかる。	・ 習熟別グループでの学習を行う。（3～6年） ・ 具体物や半具体物の操作を取り入れ、活動を通して意味理解をさせながら四則計算の理解につなげる。 ・ スモールステップで取り組む。前段階の学習内容を確認しながら理解定着につなげる。	

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一小学校（ さくら学級 ）

目指す授業	○個々の課題に応じた、自立活動を行う。 ○児童の実態に応じた教材を活用する。 ○家庭と共通理解し、連携して指導することで児童の学力の定着を図る。		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・ ひらがな、カタカナが定着しておらず、正しく書くことが難しい、苦手意識をもっている児童がいる。 ・ 各学年に配当されている漢字の学習ができていない。	・ 個別の学習を徹底し、できていないところを繰り返し指導する。日記や作文等を書くことで文字を書き活用する機会を意図的に作る。 ・ 個別の実態に応じて、書くことより、読むことを重視し、学年に応じた漢字学習を行う。 ・ 漢字辞典や配当漢字表を活用し、定着を図る。 ・ 音読をしたり、読書をしたりする機会を増やす。	
算数	・ 基礎的な計算ができない児童が多い。（繰り上がり、繰り下がり、九九） ・ 文章問題に苦手意識がある児童が多い。	・ 授業中や自立活動の時間に計算問題に取り組む機会を設ける。 ・ タブレット端末を活用し、自己の課題に合った問題の習熟を図る。 ・ 一緒に問題文読みながら必要なところにチェックをつけ、考える際の手助けになるようにする。	

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり、想像したりする力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 漢字の練習には取り組んでいるが、漢字の部首や意味まで理解していない。 イ 友達の話を聞くとともに、メモ等を取らずにそのまま聞いている。	ア 漢字スキルを使って部首や意味なども理解し、文や文章の中でも使えるようにする。 イ 「聞き取りメモの工夫」などの学習を振り返り、メモを取る習慣を付ける。	
第5学年	ア 新出漢字や既習の漢字を使って文章を書く際、適切に使えていない。 イ 物語や説明文を読み、本文の言葉から登場人物の心情や文章の要点を読み取ることに課題がある。	ア 漢字スキルの練習だけでなく、文章を書くときに、漢字を使って書くことを意識させる。 イ 場面分けや段落分けの際に根拠をもたせて読ませたり、主語と述語の関係や文同士の関係に着目させたりする。	
第6学年	ア 既習の漢字を使えていなかったり、自分が書いた文章を読み返すことが難しかったりする。 イ 説明文の要旨や物語文の概要を読み取ることが難しい。	ア 1年生から6年生までの漢字に繰り返し取り組み、定着を図る。言葉遊びを行い、言葉に興味をもてるようにする。 イ 音読を繰り返し行う。また文章から感じ取ったことを友達と共有して話し合う時間を設ける。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、各児童が取り組んだり、学び合いの活動に活用したりしている。 5年：「話す・聞く」の単元で友達に聞いたことや話し合ったことをまとめるときにプレゼンテーションソフトを用い、発表している。 6年：要旨や感想をまとめる時に、文章作成ソフトを用いて書き、交流している。	4年：毎時間の授業でめあてを提示し、どのような学習をするのか見通しをもたせている。また、授業や単元の終盤に感想を書かせている。 5年：児童から出た気になったことや疑問点を取り上げ、児童がすすんで話したいと思うようにめあてを設定する。 6年：単元の流れを児童に提示したり、振り返りの後に交流する場面を設けたりする。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解する。 ・日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、統合的・発展的に考察する力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 間違えた問題をそのままにしている、十分に理解できていない。 イ 立式や答えは出せるが、根拠となる図や表、グラフに表すことができていない。	ア 間違えた問題をやり直す時間を確保する。練習問題に取り組ませる等、反復練習を重ねる。 イ 日頃の授業から自分の考えを図や表、グラフ、言葉などで説明する習慣を付ける。	
第5学年	ア 問題文の内容を理解し、既習事項から解決する見通しを自分でもつことができていない。 イ 解決方法を言葉や式、数直線等で分かりやすく説明できないことが課題である。	ア 問題文をよく読む時間を設け、場面を自分で想像できるようにする。既習事項とのつながりがないか、考えることを意識させる。 イ 解決方法を発表する場面を設け、さまざまな考え方があることや共通点、相違点について考えられるように指導する。さらに自分に合った考え方やよりよい解決方法を選択できるようにする。	
第6学年	ア 下学年の既習事項が定着していないため、新しい学習に活かすことができない。 イ 立式したことを説明することができない。	ア 既習事項のミニプリントを活用して、毎時間授業の始めに取り組む。 イ 図や数直線などで自分の考えを説明する活動を行い、友達との学び合いの中で自力解決していけるようにする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：教科書に記載されている二次元コードからデジタル教材を読み込み、各児童が取り組んだり、学び合いの活動に活用したりしている。 5年：既習の計算方法を確実にするために、計算アプリで繰り返し取り組んでいる。児童の考えをタブレット端末で他の児童に配布し、共有している。 6年：ドリル学習に e ライブラリや計算アプリなどを活用し、自分の進度に合わせて学習する時間を設ける。	4年：毎時間の授業でめあてを提示し、どのような学習をするのか見通しをもたせている。また、授業や単元の終盤に感想を書かせている。 5年：その授業で学習することや解決する課題をめあてとして共有する。課題解決のために既習事項から考えさせて、解決の見通しをもたせている。 6年：単元ごとに振り返りの時間を設け、自分でレポートなどにまとめる活動を行う。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
語彙力や文章を構成する力を高める。	文章の構成や内容を理解し、自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりする力を高める。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 授業やノート、日常会話の中で語彙が少なかったり熟語を使えなかったりする児童が多い。 イ 文章を書くことに抵抗を感じる児童が多く、深く考える前に諦めてしまう傾向が強い。	ア 導入時に児童のやる気を引き出す、ことわざや、四字熟語のクイズを設定する。 イ 学校行事や他教科と結び付けて単元を構成し、文章を書くことが必然になるような課題を設定する。	
第5学年	ア 授業やノート、日常会話の中で語彙が少なかったり熟語を使ったりしている児童が少ない。 イ 自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア 既習事項の振り返りをしながら、テンポのよい授業で集中力を持続出来るようにする。 イ グループ等の少人数で考えを述べる場面やタブレットで考えを共有する場面を作る。	
第6学年	ア 文章を構成する力や語彙力が弱い、『書く』単元において、教科書で求められている文章量に達することが出来ない。 イ 読書量が少ないため、「読む」単元において文章全体の構成や内容を把握・理解する力や叙述から筆者の考えや登場人物の気持ち等を読み取る力が弱い。	ア 教科書の文章より簡単なモデル文や型を提示し、スモールステップで学習を出来るようにする。 イ ワークシートを使用したり、授業の最初に黙読をする時間を取ったりすることで文章構成や内容を分かりやすくする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：導入時に行っている「ことわざクイズ」の問題を自分の端末を使い、PowerPoint に作成し、毎時間1つずつ出題している。 5年：全体交流では、教科書の本文をスクリーンに映し出し本文のどこを学習しているか分かりやすく提示する。Teams で資料の提示や児童のノートの紹介、意見の交流などで活用している。 6年：「書く」や「話す・聞く」単元では、Word を使い、修正や推敲をしやすくしている。	4年：授業の終末には「振り返り」の時間を設定し、そこから出た児童の願いや思いを次の時間の課題に結び付けるようにしている。 5年：単元の流れをしっかりと確認するとともに、本時の流れを黒板に提示し見通しをもって学習に取り組めるようにする。合わせて、毎時間振り返りを行う。 6年：学習計画を児童と考えたり、委員会やクラブ活動、学校行事と学習を関連付けたりすることで学びの必然性をもたせている。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
式や計算の意味等を確実に理解できるようにする。	言葉や式、図、表、グラフを用いて論理的に説明・記述できるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 九九や基本的な計算力が身に付いていない児童が多い。 イ 算数で学習した言葉や公式を使って端的に説明できる児童は少ない。	ア e ライブラリの活用によって児童自身が自分の課題を把握し、繰り返しドリルに取り組めるようにする。 イ 既習事項の活用にも目を向けさせ、解決方法の見通しをもたせる。	
第5学年	ア 基本的な四則計算の知識、技能が身に身に付いている児童は多いが、式の意味を理解している児童は少ない。 イ 言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。問題文の読み取りに課題がある。	ア 単元ごとに演習問題や復習問題に取り組む。東京ベーシックドリルの苦手な領域を抽出した問題に取り組む。 イ 子ども同士の気付きや発見の機会をもつために、ペア学習やグループ学習等での伝え合いや高め合いの場を与える。	
第6学年	ア 問題文の読み取りに課題がある児童が多く、計算に苦手意識をもっている傾向ある。 イ 自分の考えをノートに書くことに抵抗は少なく、しっかり思考することができる。	ア 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容を関連付けさせて捉えさせる。 イ 個人の考えをもった上で、グループや全体でお互いの考えを表現する活動を位置づける。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末や電子黒板などを活用することで、自他の考えの視覚化や共有化を図る。 5年：学習支援ソフトの活用により、問題解決の方法をまとめたり、他者へ説明したりすることができる。 6年：ワークシートや思考ツールを活用し、自分の考えをまとめたり、複数の考えを比較したりすることで、よりよい方法を見出すことができる。	4年：前時の学習を振り返らせたり、生活場面に関連のあるもの、興味・関心を高めるもの等を提示したりする。 5年：学習の振り返りをもとに、次時の課題を設定したり、単元の見通しをもたせたりする。 6年：授業の中で児童が見出した新たな問いを共有し、単元の学習の見通しをもたせる。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。		考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えをもつことなどができるようにする。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 漢字の定着が不十分である。 イ 語彙の獲得が不十分であることで、自分の思いや考えを伝えるときの表現力が弱い。	ア 学習の始めの5分間など短い時間での繰り返しの復習を行う。 イ 意味や用法を学んだ言葉を実際に使用し、相手に自分の考えを伝える場面で話型を示しながら発表させる。	
第5学年	ア 新出漢字を覚えることが苦手な児童が多く、漢字を活用して文を書くことが苦手である。 イ 相手意識をもって自分の考えを相手に伝えたり、相手が話していることを捉えて聞いたりすることが苦手である。	ア 宿題でのドリル学習や自主学習による練習に取り組ませる。また、漢字ミニテストを随時行い、定着を図る。 イ 授業中に考えを交流する時間を意図的・計画的に設定するとともに、自分の考えに訳を添えて話す習慣を身に付けさせる。	
第6学年	ア 文法の理解や漢字の習得に課題があり、慣れ親しんで言語を活用することが難しい。 イ 読解力が低く、自分の考えをもち、表現することに課題がある。	ア 漢字小テストを活用し、繰り返し習得に向けて練習させる。 イ 叙述をもとに、情報と情報を関連付けて読み取れるようにする。辞書や読書活動を活用して語彙を増やすなどして、表現方法を身に付けさせる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：言葉の意味や使い方を、ウェブ上の国語辞典などを活用しながら短時間で調べたり、共有したりしやすくする。 5年：e ライブラリを活用して、習熟を図るとともに、発表ノートを活用して考えたことを共有する場面をつくる。 6年：グループで活動する際、グループ内のメンバーが同時に編集できるサイトを活用することで、グループ内で役割を決め、話し合いながら編集し、個人でまとめる。提出期日を決め、隙間時間を活用しながら、取り組む。	4年：児童自らが問いをもちやすいよう、単元の導入で関連する動画や実物を見せるなどし、興味をもって学びに向かえるようにする。 5年：「めあての提示」を徹底することと、協働的に学ぶ場面を多く設定することで、学びに向かう力を涵養する。 6年：単元の初めに学習計画を立てたり、全体の流れを振り返ってからまとめることで、児童の学ぶ意欲を高める取り組みをする。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 基礎基本の定着が不十分で、計算の正確性に欠ける児童が多い。 イ 問題から場面を想像し、図や式に表すことに課題を感じる児童が多い。	ア 習熟タイムなどを活用し、繰り返し練習をする。また期末テストを見据え、計画的に学習を振り返る時間を設定する。 イ 児童が自分の意見を話しやすい環境を整え、様々な考え方や表現に触れることで、場面を想像しやすくし図や式へと表すためのヒントを数多く引き出す。	
第5学年	ア 整数の計算ができて、小数の計算になるとうまく計算ができない児童が多い。 イ 演算決定の際に、除法なのか、乗法なのか、文章を読んで判断することが困難な児童が多い。	ア 1 時間の学習の中で、出会う時間、自力解決の時間、共有確認の時間、適応問題に取り組む時間と、明確に分け、既習事項を活用すれば新出事項を解決することができるという経験を繰り返し積ませる。 イ 授業の中で演算決定をする場面では、図を描いたり読んだりする場面を意識的に設定し、理解を深めることをねらう。	
第6学年	ア 既習事項が身に付いておらず、基礎的・基本的な概念や性質を理解できていない児童が多い。 イ 問題から式や図に表す力が低く、見通しをもって学習に取り組めていない児童が多い。	ア 習熟タイム（東京ベーシック・ドリル）を活用し、繰り返し練習させる。また、既習を想起させながら授業を行う。 イ 問題場面が式や図と関連付けられているかを確認し、児童の実態に応じて既習事項を振り返る。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年:e ライブラリで苦手なところを繰り返し学習し、定着を目指す。 5年:e ライブラリを活用して、習熟を図るとともに、発表ノートを活用して考えたことを共有する場面をつくる。 6年:ICT 機器上に自分の考えを入力し、大型提示装置で全体に発表させることで、効果的に考えを表現し合えるようにする。	4年:一人一人の「分からない」という声に対し、みんなで教え合えるような場面を設定し、「分かった!できた!使えた!」という実感をもたせる。 5年:「めあての提示」を徹底することと、協働的に学ぶ場面を多く設定することで、学びに向かう力を涵養する。 6年:単元の初めに学習計画を立てたり、全体の流れを振り返ってからまとめをしたりすることで、児童の学ぶ意欲を高める。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
語彙を使ったり文章を書いたりするための、言葉の力を身に付ける。	自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりする力を高める。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ 自分の考えを伝えようとはするが、論理的にまとめることが苦手な児童が多い。	ア 関心を持てるように、言葉遊びやゲーム形式で漢字の学習に取り組む。 イ 話し合いや全体で意見を共有する場面では、目的に合った思考ツールを用いて話し合う視点を明確にする。	
第5学年	ア 語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ 自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア 言葉を使うことの良さを伝え、書く、読む、話す・聞くことの関連を踏まえて既習事項を振り返り、言葉の力の定着を図る。 イ 学級活動や他教科をとおして、グループで話し合ったり、考えを書いてまとめたりして、相手に伝えたりすることを意識して、考える活動に取り組む。	
第6学年	ア 語彙が少なく、漢字や熟語の定着に課題がある。 イ 自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが苦手な児童が多い。	ア 言葉を使うことの良さを伝え、書く、読む、話す・聞くことの関連を踏まえて既習事項を振り返り、言葉の力の定着を図る。 イ 学級活動や他教科を通して、グループで話し合ったり、考えを書いてまとめたりして、相手に伝えたりすることを意識して、考える活動に取り組む。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人一人の課題をワードやエクセルで作成することで書くことへの負担を軽減し、プレゼンテーションソフトを活用して意見を発表できるようにする。 5年：学習支援ソフトを用いて、文章の構成を考えたり、教材文の読み取りをしたりして、友達と自分の考えを共有させる。 6年：学習支援ソフトを用いて、文章の構成を考えたり、教材文の読み取りをしたりして、友達と自分の考えを共有させる。	4年：振り返りの視点を明確にすることとこれまでの学習の流れが分かるような振り返りシートを用意し、次への意欲を高め、目的を明確にする。 5年：日頃から漢字や言葉の意味を問い、言葉に親しみを持てるようにする。 6年：漢字テストで熟語を書けば追加点がもらえるように設定し、言葉を覚えようとする意識を持たせる。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数の感覚を身に付け、式や計算の意味を理解できるようにする。	自分の考えを、既習事項をもとに説明できるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 基本的な四則演算に課題がある児童が多い。立式や計算ができて、意味を理解している児童は少ない。 イ 問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア 基本的な計算のうち、苦手になっている内容までさかのぼって復習することで、定着を図る。 イ 既習事項を繰り返し確認し、既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	
第5学年	ア 基本的な四則演算に課題がある児童が多い。立式や計算ができて、意味を理解している児童は少ない。 イ 問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア 基本的な計算のうち、苦手になっている内容までさかのぼって復習することで、定着を図る。 イ 既習事項を繰り返し確認し、既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	
第6学年	ア 基本的な四則演算に課題がある児童が多い。立式や計算ができて、意味を理解している児童は少ない。 イ 問題文の理解に課題があり、言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。	ア 基本的な計算のうち、苦手になっている内容までさかのぼって復習することで、定着を図る。 イ 既習事項を繰り返し確認し、既習の内容を活用することで新しい内容を理解させる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：早く課題を終えた児童がプレゼンテーションソフトを用いて問題作りやそれを解き合う活動を行い、理解を深めさせる。 5年：学習支援ソフトで自分の考えを友達と共有し、見方や考え方を広げさせる。 6年：学習支援ソフトで自分の考えを友達と共有し、見方や考え方を広げさせる。	4年：毎時間めあてとまとめを板書し、それぞれが振り返る時間を確保する。 5年：既習事項を繰り返し確認する場面を作ることによって定着させ、新出内容について論理的に考えられるようにする。 6年：既習事項を繰り返し確認する場面を作ることによって定着させ、新出内容について論理的に考えられるようにする。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 新出漢字を文章の中で使うことができない。 イ 話の内容を捉え、相手に伝える力が低い。	ア 漢字を学習するときに、文章を書かせる。振り返り等で使った漢字の数を数える。 イ ペアやグループの話合い活動と、調べたことの発表会をする。	
第5学年	ア 漢字の習熟が低く、語彙が少ない。 イ 思考に関わる語彙の量が少なく、考えが広がらない。	ア 漢字小テストを習慣化・読書の推進 イ 思考のモデルを示し、真似することから始める。	
第6学年	ア 漢字の習熟が低く、語彙が少ない。 イ 文章の構成や展開をとらえること、要点をつかむ力が低い。	ア 漢字小テストを習慣化・読書の推進 イ 一般的な文章の構成を理解し、要点がどこに書いてあるか自力で探すことを繰り返す。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：ドリルプラネットを活用し、漢字の習熟を図る。 5年：あかねこドリルを活用し、小テストの習慣化を図り漢字を習熟させる。 6年：e ライブラリとドリルを活用し、漢字を繰り返し学習させる。	4年：教科書の教材にある巻頭言を活用し、見通しをもった単元開きをする。 5年：個別の学習計画を立てさせ、いつまでに何をやるか考えて学習することを習慣化させる。 6年：ジャーナルの習慣化を図る。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。	見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 除法計算で商の見積もりが出ない。立たない。（乗法九九の習熟が低い） イ 計算や図形に関して、成り立つ性質を見だし、くふうして考える力が低い。	ア 復習を取り入れる。フラッシュカードで九九の習熟をする。 イ まず穴埋め方式で考え、スモールステップで思考を深めていく。	
第5学年	ア 小数のわり算の習熟が低い。（商の立て方、あまりの考え方など） イ 2つの数量の対応や変わり方に着目し、簡単な式で表されている関係を考察する力が低い。	ア 小数のわり算を復習する時間を作る。 イ 立式などに対して、理由を添えて発言する習慣をつける。	
第6学年	ア 分数の意味と、比例の意味が分からない。 イ 伴って変わる2つの数量やそれらの関係について考える力が低い。	ア 過去の学年にさかのぼり、復習をする。 イ 授業の既習を使った練習問題を用意し、同じような関係だと気づかせて自分で考える力をつける。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：e ライブラリで、前学年の復習をさせる。 5年：あかねこドリルで、繰り返し計算問題に取り組ませる。 6年：e ライブラリで個々のレベルにあった復習問題に取り組ませる。	4年：単元の始めに、オープニングムービーを見せて学習の見通しをもたせる。 5年：授業で学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめを書かせる。 6年：学習の振り返りの定着を図る。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
当該学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりすることができる。	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように文章を整えることができる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 読み書きの習得率は個人差が大きく、学習した漢字を文章に書く際に際に使用できない児童が多い。 イ 相手や目的を意識して自分の考えを表現することや、自分の文章を読み直して間違いを正すことに苦手意識をもっている児童がいる。	ア 漢字を読み書きする機会をどの授業でも意図的に増やす。また、辞書や辞典を使って自分で調べる活動を積極的に取り入れる。 イ 要点を押さえ、伝えたいことを端的に伝える活動を取り入れる。また、普段から自分の文章を読み直すことや、互いの考えを伝え合う活動を取り入れる。	
第5学年	ア 1割の正答率の児童から9割の正答率の児童まで、漢字の読み書きの正答率は、個人差が大きい。 イ 自分の考えをもち、表現することに課題がある。主語・述語・修飾語等の文法を正しく理解し、文章に書き表す力に個人差がある。	ア 全教科を通して文章の中で漢字を使う経験を重ねたり、音読や黙読等、読む機会を意図的・計画的に増やしたりしていく。 イ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を ICT 機器を使って伝え合う。その中で、自他の文章の良いところを見つける活動を取り入れる。	
第6学年	ア 小テストの結果では、学級の平均が高いが、出題範囲が分かっていないテストになると正答率が下がってしまう。 イ 文章を書いたのち、その文章を推敲する児童が少ないのが課題である。	ア 小テストで学習を終わらせるのではなく、その後も文章の中で漢字を使う経験を重ねたり、自主学習で日常的に漢字を使用する場面を設定したりする。 イ 一人で推敲に取り組むのに加えて、友達と文章を読み合う時間を取り入れたり、友達の文章に対して自分の考えを伝えたりする場面を設定する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末を用いて漢字の復習をさせる。また、作文等を書くとき、文章の下書きをタブレットで行い、自分で読み直し推敲したり、友達と比較したりさせる。 5年：他教科と関連させ、グループごとにテーマに沿った文章を共同で編集する中で、文章表現や内容を改善し、文章構成力や相手の意見を取り入れる柔軟性を身に付けさせる。 6年：作成した文章をクラスの全員が見られる環境を設定し、友達の文章に対してよかったところを伝えるコメント機能を設定する。	4年：授業で学んだことを毎時間振り返り、できるようになったことやこれから学びたいことをクラスで共有する。 5年：デジタルポートフォリオを作成し、学習の進捗や成果を可視化して振り返りを行うことで、学びに向かう力を育成する。 6年：学習課題を全体で確認し、その課題を解決するために自分で学習方法を工夫していくような活動を設定する。毎回の振り返りを着実にを行い、学びに向かう力を育成する。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等	
整数、小数及び分数の性質を理解するとともに、それらの計算の意味について理解し、計算することができる。		数量の関係や問題場面の数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考えている。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 既習事項を生かして学習に取り組める児童が少ない。 イ 計算する中で、計算の仕方を考えられても、言葉で説明することが苦手な児童が多い。	ア 既習事項の確認をしたり、東京ベーシックドリル等を活用したりして、定期的に復習を行う。 イ 自分の考えを友達と共有する場面を設定し、根拠を基に問題を解決する経験を積ませる。	
第5学年	ア 数量や図形の知識・技能の定着に個人差がある。 イ 問題に対して自力で解決したり、複数の解決方法を見出したり、適切に説明し伝え合ったりする力が身に付いていない児童がいる。	ア 計算ドリルや東京ベーシックドリル・ICT 機器を効果的に活用し、5年生の基礎的・基本的な知識の確実な定着を図る。 イ 毎時間既習事項を確実に定着させた上で、適切な手立てを用いて考えたり、筋道を立てて課題を解決したり、説明し合ったりする場面を適宜取り入れる。	
第6学年	ア 数量や図形の知識・技能の定着が大きく2極化している。 イ 一つの解法だけでなく、他の解法を考えるなど、色々な角度から問題を考えることが難しい児童がいる。	ア 一斉指導だけでなく、自由進捗で学習を進める時間を設定し、学習内容の定着を図る。 イ 全体共有の際に、一つの考えでなく、様々な考えを共有し児童が多くの考えに触れられるようにする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について

4年：一人1台端末を用いて、東京ベーシックドリルに取り組みせ、自分の苦手な単元を復習させる。

5年：学習の後半で ICT 機器を活用して発展問題に取り組みせ、学習の個性化を図る。また、ミライシード等を活用し、考えを共有する。

6年：自分の考えをデジタルノートに書き表し、児童が多くの考えに触れられるようにする。また、自習の時間を設けてドリルパークや e ライブラリを活用していく。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

4年：単元に入る前に既習事項を確認、復習をさせ、学習の見通しをもたせる。また、本時の振り返りを毎授業行い、次の授業に生かせるようにする。

5年：単元前に既習事項を確認し、その定着を図ることで、思考のスタートラインを揃える。毎時間、「今回学んだことで、次できそうなことは何か。」を問うことで、統合・発展を図る。

6年：学習課題を全体で確認し、その課題を解決するために自分で学習方法を工夫していくような活動を設定する。毎回の振り返りを着実にを行い、学びに向かう力を育成する。

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校（ ひまわり学級 ）

目指す授業	○ 児童が自信をもって取り組める授業 (児童の実態に合わせた課題の設定、個に応じた支援) ○ 視覚的に分かりやすい授業 (ICT 機器の活用、具体物の提示) ○ 児童の学びが深まる授業 (体験的な学習活動、振り返りの充実、具体物を用いた教材の工夫)		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	・語彙が少ないことや、単語を聞いて実物を想起することが難しい。 ・話を聞いたり文章を読んだりしたことから内容をイメージすることが難しい。 ・集中して話を聞くことが難しい。	・しりとりやカルタなどの言葉遊びを通して、語彙の習得を目指す。 ・文章を短く区切りながら聞き取らせる。また、文章の様子を表した場面絵などを用いた読み取り活動に取り組ませる。 ・言葉だけでなく、絵などの掲示物を取り入れ説明する。端的に説明し、集中して取り組む時間を設定する。	
算数	・文章問題を読んで立式し、正確な答えを導き出すことが難しい。 ・数の概念の理解が難しい。 ・既習事項の定着に多くの時間を必要とする。	・文章問題の場面を具体的に表し、内容をとらえさせる。具体物などの操作を通して、正しく計算ができるようにする。 ・具体物を用いた学習活動を設定する。 ・既習事項の定着を図るために、掲示物を工夫したり、個別の課題を設定したりしながら計画的に繰り返し学習する時間を設ける。	

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立雷塚小学校（なのはな学級）

目指す授業		○ 児童が自信をもって取り組める授業 (児童に寄り添う言葉掛けや支援のある授業) ○ 児童が分かりやすい授業 (学習内容の視覚化、具体物を用いた教材、教具を活用した授業) ○ 児童がすすんで取り組める授業 (集中して学習に取り組める授業、基礎・基本を重視した授業)		
教科	① 児童の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○ 単語や漢字を正しく読む力 ・ 拗音、長音が定着していない。漢字の読みが定着まで時間がかかる。	○ 拗音、長音の正確な理解を促す。特殊音節の音の動作化を行い、表記の違いに気付かせる。特性に応じた漢字学習に取り組ませる。		
	○ 集中して話を聞く力 ・ 自分のことを話したい思いが強く、相手の話が終わるまで待てない。他に注意が向かい集中して聞けない。 ○ 文字や漢字を正しく書く力 ・ 書くことに抵抗がある。漢字の定着まで時間がかかる。	○ 最後まで話を聞く習慣を身に付けさせるため、日常的に聞くことを意識させる指導を行う。 ○ 個に応じた課題を設定する。単語や短文から書く。なぞる、視写するなど児童それぞれの実態に応じて書き方で取り組ませる。		
算数	○ 正確に計算する力 ・ 学年に応じた基礎的な計算が定着していない。 ○ 問題を理解し解く力 ・ 題意を捉えて考えることが難しい。	○ 児童の実態に応じ、場合により下の学年まで戻り、基礎的な計算を繰り返し学習させる。 ○ 問題内容の視覚化や、具体物、半具体物の操作、絵や図の活用、動作化等、児童の実態に応じた考える学習を積み重ねさせる。		

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
当該学年までに配当された漢字や語句の意味を理解して話や文章の中で正しく使う力。	・中心となる語や文、必要な情報を見付け、文の全体像を具体的に想像する力。 ・自分の考えと事実や理由を分けて相手に伝わる文章を書く力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 新出漢字や語彙の定着が不十分である。 イ 文章問題の間違った読解をしてしまう。	ア 新出漢字や語彙を使った短文作りに取り組ませる。 イ 文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。	
第5学年	ア 文章の読解や問いに答えることができていない。 イ 自分の言葉で説明することが苦手である。	ア 文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行う。日常的に辞書を使った意味調べをする。 イ 書いた文章を友達と読み合う場面を設定し、様々な表現方法があることに気付かせる。話型を提示する。	
第6学年	ア 新出漢字や語彙の意味が定着していない。 イ 叙述を基にして、自分の考えをもち、文章や発表等で表現できていない。	ア 新出漢字の定着を図る小テストを実施する。読解単元で使用される言葉の辞書を使った意味調べに取り組ませる。 イ 日記やその日にあったことを振り返る文章を書き、文章を書くことに慣れ親しみ書きやすい状況を作っていく。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末のドリル教材を活用して、正答率が低い新出漢字の反復練習に取り組む。 5年：タブレット PC を活用して、ドリル教材に取り組む。 6年：タブレット PC を活用したドリル教材を使うことで、語彙を増やしていく。	4年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 5年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 6年：情報共有ソフトを使用して、児童間での意見交換や共有を行っていく。

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などの基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する力。	問題場面を具体的に想像し、数量の関係に着目して、根拠を基に道筋を立てて考えたり、立式したりする力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 四則計算の定着が不十分である。 イ 文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	ア 朝学習や授業の導入で、四則計算に取り組む時間を設定する。 イ 文章問題を読み、何を求められているのか、文章に線や印を付け、見付けることができるようにする。	
第5学年	ア 四則計算の定着が不十分である。 イ 文章題からの立式が苦手である。	ア 朝学習や授業の導入、家庭学習などでタブレット PC を活用し、四則計算の時間を設定する。 イ 文章題の単位から立式の仕方を考えさせる。立式に必要な情報を読み取らせ、確認する。文章題の内容を、図や表に表して考える場面を設定する。	
第6学年	ア 四則演算（主にかけ算・わり算）の定着が不十分である。 イ 文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	ア 朝学習や授業前に基礎計算の時間を設け、四則演算の力を高めていく。 イ 教員と文章を丁寧に読み込み、求められている答えが何であるかを一緒に把握し、答えを出すポイントを丁寧に割り出すようにする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：一人1台端末のドリル教材を活用して、四則計算の反復練習に取り組む。 5年：一人1台端末を活用して、ドリル教材に取り組む。 6年：一人1台端末のドリル教材を活用して、四則演算の力を定着させる。	4年：導入で毎時間めあてを確認し、学習の見通しをもたせる。最後に振り返りを書かせる時間を設け、自己の振り返りを行わせる。 5年：廊下掲示や「学びの壁」を活用し、学習したことをいつでも見返すことができるようにする。 6年：問題を提示し、そこから問題解決への見通しを立たせる授業の流れを作る。学習内容を振り返り、まとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・学年別漢字配当表の漢字の再確認及びその他の常用漢字を年間350字以上読めるようにする。 ・文章に含まれている情報の扱い方について、比較・分類整理等の基本的な技術を身に付ける。	・文章の種類ごとに、中心的部分と付加的部分や、主張と例や図表との関係、登場人物の人間関係や心情変化などを表現に即して捉えられるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校学習漢字が身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イ テストで間違えた問題をやり直す生徒が少なく、課題がある。	ア 小学校1年の学習漢字から、遡って指導を毎時間行うとともに、一つ一つの漢字の使用例を考えさせる。 イ 定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	
第2学年	ア 漢字の使い分けが身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イ テストで間違えた問題をやり直す生徒が少なく、課題がある。	ア 昨年度に引き続き、小学校6年の学習漢字及び中学校学習漢字の指導・練習を毎時間行う。 イ 定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	
第3学年	ア 常用漢字の読み書き、使い分けが身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イ テストで間違えた問題をやり直す生徒が少なく、課題がある。	ア 中学校3年学習漢字を中心に、高校入試頻出漢字もできるだけ多く、毎授業の中で指導を行う。 イ 定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について 全学年：漢字使用例の端末検索やミライシード等のドリル学習の推奨を行う。 作文を書く際に、構成を確認したり、下書きを端末で行う。 文学的文章読解において、課題学習を設定し、端末を用いて発表を行う。	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について 全学年：単元（作品）ごとに学習計画表を作成・配布し、授業の進行に合わせて自己評価を記入させる。単元（作品）終了後回収し、コメントをつけて返却する。
---	---

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解 ・事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能		・数学を活用して事象を論理的に考察する力 ・数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校段階での知識や計算等の理解が不十分 基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ 事象を数学的に表現することが苦手 数学を用いて事象を考察することが苦手	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。良い表現や考察の仕方について共通理解を図る。	
第2学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ 事象を数学的に解釈・考察することが苦手 論理的に説明することが苦手	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。説明する機会を積極的に設定するとともに、良い説明の仕方について、そのモデルの共通理解を図る。	
第3学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ 数量や図形の性質を見出し、証明すること（命題の構成と論証）が苦手 数学を用いて事象を考察することが苦手	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。良い考え方を提示し、モデルの共有・共通理解を図る。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年共通：ミライシードのドリルパークを活用し、問題演習量の確保と知識・技能の定着を図る。また、オクリンクやムーブノートを用いて、スムーズな教材の提示や全体共有を図る。 Kahoot!を用いて、演習を積極的に取り組むことを促す。	全学年共通：定期考査ごとや単元ごとなど、定期的に自身の学習の取り組みについて振り返りを行い、学習方法の反省や修正・洗練を促す。 学習内容について復習する課題を出すことで、学習内容（既有知識）の定着とそれに伴う「学びに向かう力」の定着を図る。

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立小中一貫校村山学園（ S組 ）

目指す授業		○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識・技能を増やし、その知識・技能の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○拗音、促音、濁音の表記の仕方や助詞の使い方が定着していない生徒がいる。 ○漢字の読み書きに課題があり、文章を円滑に読めないことがある。 ○慣用句やことわざなど、意味を知らない語彙や言い回りがあり、日常生活で使用する言葉の意味を理解できないことがある。	○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、拗音、促音、濁音の正しい表記の仕方や助詞の適切な使い方を身に付けさせる。 ○継続的に漢字学習の取組を行う。また、タブレット端末を用いた問題演習や音読などの取組を通して、覚えた漢字をアウトプットする機会を設ける。 ○言葉の学習を通して、語彙の知識を増やす。また、日常生活における具体的な使い方を確認し、知識の定着を図る。		
数学	○お金の計算や時間の計算などを日常生活の場面で活用することに課題がある。 ○整数の四則計算は、個による差が大きい。 ○文章問題は、文章の理解が難しい生徒や解法が思い浮かばない生徒がいる。 ○小数・分数の計算に、不安を抱える生徒が多い。	○日常生活の場面を想定した問題に取り組ませる。また、ロールプレイ形式を取り入れたグループ学習に取り組ませる。 ○個の学習状況に応じて、かけ算表など活用する手だてを伝え、問題に取り組ませる。また、プリントを段階的に用意し、取り組ませる。 ○繰り返し短い文章の読解を通じて、文章問題を読むことに慣れさせる。また、文章中の重要語句に注目させ、問題に取り組ませる。 ○タブレット端末を活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、計算パズル等に取り組ませたりすることで、楽しんで取り組ませる。		

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二学校（ E 組 ）

目指す授業		○ 基礎・基本を定着させる授業 ○ 主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○ 漢字が定着しておらず、文を円滑に読めないことがある。 ○ 書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多い。 ○ 話すことに対して意欲はあるが、スキルが身に付いていない。	○ 毎授業で漢字学習を行う。また、短文作成や漢字テストなどを通して、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。 ○ 作文課題では、タブレット端末を用いて、負担なく文章を作成できるよう手だてを講じる。また、文の構成に見通しをもって書くことができるよう、個に応じて文章の型を示す。 ○ 短い内容、小さな空間で話すことから始めるなど、スモールステップを踏んだ学習内容を設定する。		
数学	○ 基本的な知識・技能の定着が不十分である。 ○ 事象を数理的に捉え、表現・処理する技能が身についていない。 ○ 計算することに対して苦手意識をもつ生徒が多い。	○ 個の学習状況に応じて難易度の異なるプリントを段階的に用意し、繰り返し取り組む機会を作る。 ○ 具体的な場면을提示し、情報を整理して考察する時間を設ける。また、前時に学んだ内容を授業の初めに振り返る。 ○ 基礎的な計算から段階的に取り組み、スモールステップで達成感を感じさせながら学ばせる。		

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
言葉の意味や用法の理解、文章の構造や内容を理解する力を養う。	・明確で効果的な文章を書く力を養う。 ・口頭で自分の意見を伝える力を身に付けさせる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 文章に書いてあることを、正しく理解することが、苦手である。 イ 課題に対する、自分の考えをもつことが、苦手である。	ア 音読に取り組ませる。人物の気持ちや場面の様子を捉えられるよう、話し合いで考えを共有させる。 イ 選択肢のある課題や、児童の関心の高い課題を提示することで、自分の考えをもたせるようにする。	
第5学年	ア 読解力に差があり、文脈を正確に読み取ることが難しい場面が多くある。 イ 自分の意見を、理由を添えて説明することが苦手である。	ア 要点をどのように読み取るのか、具体的に指導し、サイドラインを引かせて可視化できるようにする。 イ 話し合い活動の前に、自分の考えをワークシートやノートに書かせる。	
第6学年	ア 文章を正しく読みとれず、要点をおさえたり、要旨をまとめたりすることが難しい児童が多い。 イ 自分の意見を、他者に分かりやすく伝えることに、苦手意識がある。	ア 文章の構成や、大切な語句に注目させながら文章を読む。読み取った内容を、まとめる活動に取り組ませる。 イ 意見交換をする機会を増やす。児童同士で、伝え方の評価をさせる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。理解したことを Microsoft Teams を使って、交流する。 5年：児童ごとに異なるテーマを設定し、デジタル教材を使って個別に取り組ませる。最終的にまとめて一つのプレゼンテーションを作成する。 6年：児童が各自で個別に国語に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。	4年：児童の興味関心に合わせた物語を紹介し、読書活動を推進させることで、国語への意欲を高める。 5年：漢字テスト等で目標設定を行い、努力を褒め、学びの成果を認めることで、意欲を高める。 6年：自身の課題を把握させた後、自分で学習目標を設定し、自主的に学習をすすめるよう指導する。

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な計算能力や、数学的な概念の理解を深める。	答えだけでなく、その導出過程を分かりやすく説明できるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 四則計算で簡単な間違いをしたり、時間がかかったりする児童がいる。 イ 解き方や考え方を説明することが苦手である。	ア 100マス計算やプリントを使い、基本的な四則計算の反復練習に取り組ませる。 イ 類似問題の数値を簡略化させて解かせる。また、解き方や考え方を選択できるようにする。	
第5学年	ア 基本的な方程式や、式の操作方法を理解できていない児童がいる。 イ 解き方や考え方を説明することが苦手である。また、立式をする際、筋道を立てて考えることが苦手な児童が多い。	ア 反復練習に取り組ませる。また、買い物の計算や時間の管理など、実生活で遭遇する問題に取り組ませる。 イ 既習事項や公式を教室に掲示したり、学習の初めに復習したりする。また、説明のフォーマットを準備する。	
第6学年	ア 基礎的な計算能力に、差が見受けられる。 イ 解き方や考え方を説明することが苦手である。長文問題の読み取りが苦手な児童が多い。	ア 定期的な小テストを実施し、学習の進捗を確認する。個々の理解度に応じた、ドリルの取組ができるようにする。 イ 長文の文章問題では、必要な情報を枠で囲ませたり、数値を簡略化させたりすることで、理解できるようにする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。最終的にグループでフィードバックを行う。 5年：児童ごとに課題を設定し、デジタル教材を使って個別に取り組ませる。理解度ごとのグループをつくり、協力して課題解決できるようにする。 6年：児童が各自で個別に算数に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。	4年：数字や形を使ったゲームやパズル等を取り入れ、楽しみながら学べる活動を行うことで、好奇心を引き出す。 5年：毎日短時間でもドリルに取り組ませ、その成果を可視化させることで学習習慣を確立させ、正解したときや努力を認めることで、前向きな態度を育てる。 6年：学習の振り返りを行い、自己の理解度を自己評価することで、学びに向かう力を高める。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけさせるために、学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができるよう指導する。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養うために、書く指導にあてる時間を十分に確保する。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 基本的な漢字の読み書きができる。 イ 文章の内容を適切に解釈する。	ア 毎時間の小テストと反復練習。 イ 言葉同士のつながり、文同士の関連を意識した読解の授業。	
第2学年	ア 基本的な漢字の読み書きができる。 イ 自分の思いや考えが適切に伝わる文章を書ける。	ア 毎時間の小テストと反復練習。 イ 短い課題作文を多く出題する。	
第3学年	ア 基本的な漢字の読み書きができる。 イ 筆者の主張を踏まえて、自分の考えを具体的に書ける。	ア 学期に2回実施する漢字50問テストと反復練習。 イ 説明的文章を活用して、課題について作文を書く。自身で添削する。少人数グループとなって評価活動をする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：e ライブラリの活用。 2年：発表活動に向けての調査・研究。 3年：作文や発表活動に向けての調査・研究	1年：定期テスト時のワークブックの提出。 2年：定期テスト時のワークブックの提出。 3年：定期テスト時のワークブック等の提出 教師自作の課題プリント等の提出

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や、法則を理解させるとともに、事象を論理的に考える力を身に付けさせる。	数量や図形の基礎的な概念や、法則を基に、事象を数学的に表現・処理する力を身に付けさせる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 基礎的な計算方法を身に付けること。 イ 文章問題や、説明する問題に対して無回答が多いこと。	ア e ライブラリ等を活用し、反復学習を行う。 イ 授業でのグループ活動で積極的に数学の言葉を使い、他者に説明させる。	
第2学年	ア 基礎的な計算方法を身に付けること。 イ 題意を理解し、式を立てること。	ア 復習問題を定期的に扱い、反復練習をする機会を設ける。 イ 類題を多く扱い、立式することに慣れさせる。	
第3学年	ア 公식을暗記し、活用して計算すること。 イ 証明問題の正答率が低いこと。	ア 復習問題を定期的に実施し、反復練習をする機会を設ける。 イ 定期考査で問題を出題し、自主学習に取り組ませる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：教科書のインターネットコンテンツを活用し、実際に操作させ、特徴を見出させることや、e ライブラリを活用し、反復学習を行う。 2年：教科書のインターネットコンテンツを扱い、事象を視覚的に理解することや、反復学習に、e ライブラリを活用する。 3年：教科書に記載されているインターネットコンテンツを活用する授業や、一人1台端末を使ってグループで問題を作成し、解き合う取組を実施する。	1年：定期考査の振り返りレポートの作成や、各章ごとに振り返りシートを書かせ、自分の躓きや成長を実感させる。 2年：定期考査後に学習の振り返りシートを記入する。また、各章の授業内容を終えた際は、単元テストを行うことで、学びに向かう機会を増やす。 3年：各章の終了後、学習の振り返りシートを記入する。章の内容を踏まえたレポートを作成させることで、知識を定着させて自ら学ぶ姿勢を育成する。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・小学校配当の漢字を普段の生活のなかで書けるようにする。 ・文章を書くとき、主述の関係や、接続語を的確に使い、他者に伝わる文章を書く。	・読書に親しみ、月に2冊以上、本を読む。 ・自分の意見を、根拠を明確にして他者に伝えられるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校の配当漢字が読めない生徒がいる。 イ 文章を書く際、主述の分かりにくい文章を書く生徒が多い。	ア 名文の視写を定期的に行い、漢字に親しむ時間をつくる。 イ 単元ごとにミニ作文を書き、生徒同士で読ませることで、他者意識を持った文章を書かせる経験を積む。	
第2学年	ア 小学校の配当漢字が読めない生徒がいる。 イ 本を読む生徒が少ない。	ア 漢字を使ったゲームや、辞書を使う授業を増やし漢字に親しむ時間をつくる。 イ 教科担当と、図書館司書で定期的にブックトークを行い、本に親しむ環境をつくる。	
第3学年	ア 小学校の配当漢字が書けない生徒がいる。 イ 文章を書く際に、根拠の不明確な生徒が多い。	ア 漢字の小テストを定期的に行う。 イ 定期テストの際に、作文問題を課し、他者に伝わりやすい文章を書く練習をする。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：スピーチの際、PowerPoint で資料作りをする。 2年：作文の際、手書き、PC 書き、選択制にする。 3年：スピーチの際、PowerPoint で資料作りをする。	1年：単元のはじめに授業計画（どのくらいの時数で何を行うか）を伝える。 2年：単元のはじめに授業計画（どのくらいの時数で何を行うか）を伝える。 3年：単元のはじめに授業計画（どのくらいの時数で何を行うか）を伝える。

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
☐ ア 知識及び技能	☐ イ 思考力、判断力、表現力等
授業で学習する基本的な数の概念、式が分かるようになる。	自分で問題を解いた際、自分の考えを筋道を立てて説明し、相手に説明ができるようになる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	☐ ア 小学校の学習内容の理解が不十分である。 ☐ イ 計算の過程の記述に不備が多い。	☐ ア 小学校の学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 ☐ イ 質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	
第2学年	☐ ア 第1学年の学習内容の理解が不十分である。 ☐ イ 計算の過程の記述に不備が多い。	☐ ア 第1学年の学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 ☐ イ 質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	
第3学年	☐ ア 第2学年までの学習内容の理解が不十分である。 ☐ イ 計算の過程の記述に不備が多い。	☐ ア 第2学年までの学習内容を用いる際、復習を丁寧に行う。 ☐ イ 質問対応時などで、計算・思考の過程を自分の言葉や式で説明する機会を増やす。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年: Temas などて資料を展開する。 2年: Temas などて資料を展開する。 3年: Temas などて資料を展開する。	1年: 定期試験後などで振り返りを課し、今後の自身の学習における課題を把握できるようにする。 2年: 定期試験後などで振り返りを課し、今後の自身の学習における課題を把握できるようにする。 3年: 定期試験後などで振り返りを課し、今後の自身の学習における課題を把握できるようにする。

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第一中学校（I組）

目指す授業		○ 基礎的な内容を理解させる。 ○ 視覚や聴覚の情報を活用し、繰り返しによる定着を図る。 ○ 考えたことを自分の言葉で表現できるようにする。		
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	・ 言葉の概念を理解していない。 ・ 話を最後まで聞けない。 ・ 漢字の読み書きができない。 ・ 会話で相手の意図を想像することができない。 ・ テーマに沿った作文を書くことができない。	・ 図や写真、ネットの画像や動画を活用し、動作等取り入れて、具体的に理解させる。 ・ 相手の話を最後まできちんと聞く姿勢を育てる。 ・ 話のポイントを簡潔に伝える。 ・ 漢字の筆順、熟語の意味の学習を丁寧に行う。漢字検定試験を活用し、練習させる。 ・ 生徒の応答を丁寧に聞き取り、話がかみ合わない場合は根気よく説明する。 ・ 問題文を丁寧に読み取らせ、何について書けばいいのか考えさせる。書く順序をまとめさせる。タブレット端末を活用し、修正しながら書く練習をさせる。		
数学	・ 数を正確に効率よく数えることができない。 ・ 単位の意味を理解していない。 ・ 時計を正確に読に、何分前、何分後を理解することができない。 ・ 買い物の予算がたてられない。 ・ 文章題が解けない。	・ 配布物等の物をきちんと数えさせる。5ずつ、10ずつまとめて数えさせる。 ・ 長さ、重さ、金銭の単位の基本をきちんと学習させる。単位換算表を活用できるようにする。 ・ 時計を読む練習をする。何分前、何分後については、時計を動かしながら確認し、計算させる。 ・ 1000円でだいたいどのくらいの物が買えるのか計算機を用いながら、予算を立てさせる。校外学習、調理実習で買い物を経験させる。 ・ 文章のキーワードに注目させ、何を問われているのか確認する。加減乗除のどれを使うのかを考えさせる。困難な場合は図を描き、考えさせる。		

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字、語句学習や話し合い活動などを通して、語彙を身に付け、自分の考えを表現するために必要な基礎を向上させる。	語彙力を身に付けることで読解や思考を深め、さらに自分の考えを的確に表現し、他者との意見の交流を積極的に行う態度を育てる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第1学年	ア 学習意欲は高いが、漢字[読み取り・書き取り]や語彙の基礎的な力が身に付いていないことが表現力の乏しさにつながっている。 イ 思いや考えを発言や作文で的確に表現することができない生徒がいる。	ア 漢字のワークを用いて、読み取り、書き取りの活動や聞き取りの活動を適宜設定する。 イ グループでの活動[読み取ったことをお互いに説明し合う場面]を適宜設定する。	
第2学年	ア 漢字や語彙の基礎的な力に自信がなく、積極的に他者と対話する意欲が乏しい。 イ 思いや考えを的確に表現することができず、話し合いが深まらない。	ア 漢字の読み取り・書き取り学習時間と語句の意味調べ学習時間を増やす。 イ グループでの話し合い活動[意見や考えを伝え合う場面]を適宜設定し、話し合い内容の発表にも評価を与える。	
第3学年	ア 習得している漢字・語彙を他の語句に結び付ける応用力が乏しい。また、語彙力も不足している。 イ 筋道を立ててまとめる力が不足しており、多面的な視点に欠けている。	ア 個々の習熟度に合わせて漢字学習を進め、年間を通して力が向上していくようにテスト等の取り組みを進めていく。 イ 事前に構成を考える時間を設け、文章は必ず推敲する取り組みを繰り返し設定する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年:e ライブラリの活用をしている。反復させ知識を定着させるのに有効である。 2年:他者の考えや意見を共有したり、応用・発展に必要な情報を個々に獲得するしたりするのに有効である。 3年:文章構成を考えさせる、推敲を行う取り組みに対し有効である。	1年:本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の生かし方」に重点を置いている。 2年:本時の目標を板書することで学習の見通しを立てやすくし、振り返りの場面では、「今後の生かし方」に重点を置いている。 3年:単元の最初に全体の時間設定とともに毎時ごとのねらいもあわせて提示している。

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて				
	ア	知識及び技能	イ	思考力、判断力、表現力等
基本的な計算技能を定着させるとともに、それを日常的に活用することのできる力を身に付かせる。		問題を正しく認識し、正しい解法で解決する事のできる力を身に付かせる。また、粘り強く問題に取り組む姿勢を身に付かせる。		

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア基本的な計算技能が定着していない。 イ日常生活への利用や、文字、文章による状況説明がなされた問題に苦手意識をもっている。	ア帯活動として計算練習を行う機会を設ける。新規単元においても、既習事項と関連付けた指導を行う。 イ日常に関する問題や文章問題に触れる機会を意識的にもち、1問に対して深く掘り下げたり、考えを共有する機会を設ける。	
第2学年	ア中間層が少ないため、上位層と低位層の基礎的・基本的な計算力に差がある。 イ基礎的・基本的な計算などを活用して、発展的な問題や日常的な問題に取り組む意欲が低く、粘り強く考える生徒も多くない。	ア毎授業開始時に計算練習を行う（既習事項）。 イ各章の利用の単元において、問題に向き合う時間を確保し、粘り強く問題に向き合う態度を養う。	
第3学年	ア学力の2極化があり、低位層では小学校の既習事項が身に付いていない。 イ全体的に、自身の考えを表出化することができない。	ア小テストを単元の中で複数行い、満点になるまで再テストを繰り返し実施する。 イレポート課題において、自身の考えを文章化させる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：演習問題の解答を端末上に掲載することで、家庭や授業内の演習時間等に自らの課題意識や学習状況に応じて問題に取り組めるようにする。 2年：「e ライブラリ」を使用し、自分に必要な問題の選択を行う。 3年：演習時間には、「e ライブラリ」、「副教材」、「先生プリント」、「デジタル教科書」の中から本人が選択し、分からないところは、先生に質問するだけでなく、周りの人と話合うことも可能にしている。	1年：課題の進捗状況や内容に関する不明点を周囲と共有する時間を意識的に設け、課題意識をもって主体的に学習に取り組めるようにする。 2年：各章の導入において、最終的に達成してほしい問題を提示する。また、振り返りカードを活用し、毎時間の学習内容を記録し、学習内容を把握する。 3年：進度カードを各章のはじめに配布し、各章の目標と各授業の目標を示し、見通しをもたせ、章の最後に振り返りを行う。

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字を文章の中で使えるようになることや日常の中で使うことのできる語句の量の増加など基本的語彙力の向上。	「読むこと」における、文章の内容を理解したり、内容をもとに考えたりする力の向上。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校で学習した漢字を書けない・読めないなど、基礎・基本が定着していない生徒が多い。 イ 叙述や描写に注目し、自分の意見を根拠をもって考えることが難しい。	ア 新出漢字や文法、ことわざなど意味や文、使用場面を提示しながら学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ 根拠となる記述に線を引かせ、それをもとに考えたことを説明する活動を行う。	
第2学年	ア 小学校で学習した漢字を書けないなど、基礎・基本が定着していない。 イ 叙述や描写に注目しながら、事実と意見の関係や登場人物の心情の変化を捉えることができない。	ア 新出漢字や文法、ことわざなど意味や文、使用場面を提示しながら学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ 教材の中で重要な部分に線を引かせたり、考えたことを説明させたりすることを通して、文章の内容の理解を図る。	
第3学年	ア 漢字検定5級レベルの漢字が書けない。 イ 筆者の意見を踏まえた、自分の考えを書くことができない。	ア 新出単語を書かせる。毎週、漢字の小テストを行う。 イ 筆者の意見を見つけ、それをまとめさせる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：単元の意味調べ、課題等の共有を行う際に活用する。また、学習テーマに対して、生徒一人一人に合った形での学び、またその共有の際に利用する。 2年：学習テーマに対して、生徒一人一人が自分の個性や経験に応じて考えをまとめたり、互いの考えについてアドバイスし合ったりする場面などで活用する。 3年：単元の意味調べや、書いた文章の共有の際に活用する。	1年：第1時に必ず授業全体の見通しを共有する。単元の最後には、自己の学びを振り返る活動を実施する。 2年：単元の最初に生徒が自分で力を入れる項目を設定し、単元の最後に自分で振り返らせる取り組みを実施し、自分の力に合わせて取り組ませる。 3年：毎授業後に振り返りシートに取り組ませる。

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて			
	ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 正負の数の四則計算が定着していない。 イ 具体的な場面で活用できない。	ア ドリルや課題で繰り返し同じ問題を出題する。小テストを何度も行い、計算の仕方を理解し、できるようになる達成感を味わってもらう。 イ 効率よく平均を求める活動など、入れ、数学的な技能を日常で使える活動を設定する。	
第2学年	ア 基礎的な原理・法則を理解できていない。 → 正負の数・文字式・方程式の計算ができない。 イ 文章を式化したり、題意をくみ取りある数量を数や文字で表現することができない。	ア 授業の導入5分間を使い、毎回の計算練習を行う。 イ 授業内でことある毎に教え合いの時間を設け、数学的な表現をさせる機会を多く設ける	
第3学年	ア 四則演算の計算速度が遅く、手順の多い計算処理に対処することができない。 イ 文章題の内容と図やグラフを関連づけることができない。	ア 計算練習を課題として繰り返し実施する。短時間の小テストを実施する。 イ 授業で文章の内容と図やグラフとの関係性について、色マーカーを効果的に用いてまとめる指導を重ねていく。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：個別最適な学びとして、eライブラリを用いて自分の苦手な単元を中心に学習したり、協働的な学びとして、自分の考えをスライドにまとめて他の人と共有したり、共同編集して考えを深めていく活動に活用する。 2年：学習ソフト「ネットレ」を活用し、（特に単元末には）タブレット学習の時間を組み込んでいる。 3年：関数の発展問題についてグラフ作成ソフトを用いて解決する。	1年：eライブラリを用いて、自分で訓練したい単元を選び、取りこぼしたところを振り返る。 2年：定期考査後に「やり直しレポート」を自由課題として年間5回提出。 3年：自分で練習したい単元や達成度が低い単元などを重点的に練習できる「自宅学習ファイル」の課題を実施する。

第55回 市民文化祭

～市民文化の祭典～ 楽しい催しがいっぱい! (入場無料)

期間: 令和6年11月2日(土)～17日(日)の土・日曜日、祝日
会場: さくらホール(武蔵村山市民会館)
主催: 武蔵村山市文化協会(武蔵村山市民文化祭実行委員会) 共催: 武蔵村山市教育委員会

特別企画



演歌歌手「浜 博也」歌謡ショー&「カラオケ上達」講習会

<歌謡ショー> 前半は「鶴岡正義と東京ロマンチカ」でリードボーカルを務めた演歌歌手、浜博也さんの「ミニ歌謡ショー」です(入場無料・先着順)。
<カラオケ> 後半は、浜博也さんとカラオケ指導者の田口和江先生による「カラオケ講習会」です。舞台上で得意の歌を披露して両先生からカラオケ上達のワザを伝授してもらいましょう!

開催日: 11月4日(月・祝)
開演: 午後1時30分

歌い手募集(先着15名)申し込みは事務局(564)3692まで

会場: 小ホール

	団体名・催し名	11月2日 (土)	3日 (日)	4日 (月・祝)	9日 (土)	10日 (日)	16日 (土)	17日 (日)	会 場
ステージ部門	ウインドオーケストラ								大ホール
	民謡								
	ミュージックフェスティバル								
	日本舞踊								
	フラダンス								
	和太鼓								
	ハワイアン								
	むさむらギターサークル								小ホール
	あべんちゃーず								
	COG(ビッグバンド JAZZ)								
	歌謡ショー&カラオケ講習会								
	OTSUNA+さくらポップ								
	サーフベンチャーズ								
	吟剣詩舞								
	演劇								
展示部門	盆栽展								展示室
	俳句								会議室
	短歌								集会室
	切り絵								遊戯室
	美術展								展示室
	写真展								会議室
	村山党								集会室
	書道								展示室
催事	茶道								和室
	囲碁大会								和室・遊戯室

問合わせ先 武蔵村山市民文化祭実行委員会 事務局 TEL042-564-3692 須藤
武蔵村山市教育委員会教育部文化振興課 TEL042-565-1111 (内線656)

第55回 武蔵村山市民文化祭プログラム

ステージ部門

団体名	開催日	開演時間	内 容	会 場
ウインドオーケストラ	11月2日(土)	午後6時	武蔵村山ウインドアンサンブル「定期演奏会」	大ホール
民 謡	11月3日(日)	午前10時	日本民謡の独唱・合唱・合奏等 (村山音頭・武蔵村山音頭の参加者募集)	
ミュージックフェスティバル	11月4日(月・祝)	正午	市内音楽団体の合唱・器楽演奏と市内 小中学校音楽クラブによる音楽会	
日本舞踊	11月9日(土)	午前11時30分	日本舞踊愛好家による発表会	
フラダンス	11月10日(日)	午後1時	市内のフラダンスチームによる発表会	
和太鼓	11月16日(土)	午後1時	和太鼓連盟所属団体による和太鼓演奏	
ハワイアン	11月17日(日)	午後1時	フラハラウ オ カレオラニのフラダンス (Lani Kai 生バンド)ティーリーブズの演奏	
むさむらギターサークル	11月2日(土)	午前10時	生ギター・アンサンブル (歌謡曲、ポップス、クラシック)	小ホール
あべんちゃーず	11月2日(土)	午後2時30分	市民によるベンチャーズバンド	
COG(クロスオーバー・ジェネレーション)	11月3日(日)	午後1時30分	ビッグバンド編成のスイングJAZZバンド	
歌謡ショー&カラオケ講習会	11月4日(祝)	午後1時30分	市民文化祭特別企画 (歌手・講師：演歌歌手 浜博也さん他)	
OTSNAsession+さくらポップ合唱団	11月9日(土)	午後1時30分	市内高校OBによる13名のポップスバンド と、さくらポップ合唱団が共演	
サーフベンチャーズ	11月9日(土)	午後7時	1960年代にヒットした懐かしいベンチャーズ サウンド	
吟剣詩舞	11月10日(日)	午前10時	漢詩、和歌、俳句、現代詩などに符をつけて 吟ずる吟剣詩舞の発表の舞台	
演劇「ゴジウレンジャー」	11月16日(土)～ 17日(日)	開演時間 ⇒	16日 (土) 午後2時30分・午後6時30分 17日 (日) 午前11時・午後2時30分	

展 示 部 門

展示名	開催日	展示時間	内 容	会 場
盆栽展	11月2日(土) ～3日(日)	9時～午後5時(土) 9時～午後3時(日)	盆栽、ミニ盆栽、山野草、水石等	展示室
俳句(俳句同好会)	11月2日(土) ～3日(日)	9時～午後4時30分(土) 9時～午後4時(日)	「日常を俳句に」作品展示他	会議室
短歌(新うづみび会)	11月2日(土) ～3日(日)	9時～午後4時30分(土)	日常生活の一こまを詠んだ「短歌展」＋ 「源氏物語の朗読会」3日午後2時～	集会室
切り絵展	11月2日(土) ～3日(日)	9時～午後4時30分(土) 9時～午後4時(日)	人物、風景を和紙、折り紙等を用いて自由 に描く「切り絵」の展示会	遊戯室
美術展	11月9日(土) ～10日(日)	9時～午後4時30分(土) 9時～午後4時(日)	サークル・バラ、三ツ藤水彩画同好会、 村山墨人会、一般参加作品	展示室
写真展	11月16日(土) ～17日(日)	9時～午後4時30分(土) 9時～午後4時(日)	市内グループと一般公募による展示会	会議室
書道展	11月16日(土) ～17日(日)	9時～午後4時30分(土) 9時～午後4時(日)	書写書道からアート書道まで子供から 大人達による作品展	展示室
武士団・村山党	11月16日(土) ～17日(日)	10時～午後4時	パネル展示・甲冑の展示・パフォーマンス・ 活動紹介・的当てゲーム等	集会室

催 事 部 門

催事名	開催日	開催時間	内 容	会 場
茶 道	11月3日(日)	午前10時～午後3時	一服のお茶とお菓子で、心静かなひと時を お過ごしください (参加無料)	和室
囲碁大会	11月10日(日)	受付:正午 開始:0時30分	名人戦、有段戦、級位戦、初級戦。 参加費：大人500円、小中学生100円	和室 遊戯室

栄村との姉妹都市交流事業の開催について

- | | | | | |
|---|---|---|--|---------------------|
| 1 | 目 | 的 | 姉妹都市栄村の伝統的な太鼓（栄ふるさと太鼓）と本市の太鼓団体の子ども達が、太鼓を通じて文化交流を図る。 | |
| 2 | 主 | 催 | 武蔵村山市教育委員会 | |
| 3 | 開 | 催 | 日 | 令和6年11月9日（土）・10日（日） |
| 4 | 場 | 所 | 村山デエダラまつり会場 | |
| 5 | 日 | 程 | 11月9日（土）
本市の太鼓団体と一緒に路上会場での演奏や山車運行及び会場内を散策することで交流を図る。

11月10日（日）
ステージ演奏（午前10時30分～午前11時） | |

令和 6 年度武蔵村山市少年・古希軟式野球チーム親善試合事業
の開催結果について

- 1 開催日 令和 6 年 9 月 8 日（日）
- 2 会場 総合運動公園運動場（第 3 運動場）及び
総合体育館（第二・第三体育室）
- 3 開会式 午前 10 時から 総合運動公園運動場（第 3 運動場）
- 4 野球教室 開催時間 午前 10 時 20 分から午前 11 時 30 分まで
開催場所 総合運動公園運動場（第 3 運動場）
講師 岡島秀樹氏
参加人数 104 人
- 5 親善試合 開催時間 午後 0 時 30 分から（試合は 0 時 50 分開始）
開催場所 総合運動公園運動場（第 3 運動場）
始球式 投手：岡島秀樹氏 打者：教育長
参加人数 41 人（少年チーム 21 人・古希チーム 20 人）

試合結果

チーム名	一	二	三	四	五	六	七	計
武蔵村山 古希連合チーム	6	0	0	1	－	－	－	7
オール武蔵村山 少年野球チーム	2	0	5	1	－	－	－	8

※試合時間 1 時間 30 分。規定により打ち切り

- 6 講演会 開催時間 午後 3 時から（開場午後 2 時 30 分）
開催場所 総合体育館第二・第三体育室
講師 岡島秀樹氏・栗原由佳氏
講演テーマ Step by Step ～個性をモノにする～
参加人数 162 人

令和 6 年度少年少女スポーツ大会
第 4 1 回少年少女サッカー大会の開催について

- 1 主 催 武蔵村山市教育委員会
- 2 主 管 武蔵村山市サッカー協会
- 3 協 力 武蔵村山市スポーツ推進委員協議会
- 4 開 催 日 令和 6 年 1 1 月 1 6 日（土） 小雨決行
（中止決定は午前 6 時）※予備日は 1 1 月 1 7 日（日）
- 5 会 場 総合運動公園運動場（第 1 運動場・第 2 運動場）
- 6 開 会 式 令和 6 年 1 1 月 1 6 日（土）午前 9 時（第 2 運動場）
- 7 試合開始 午前 9 時 3 0 分
- 8 登録人員 選手 8 人以上とする。
- 9 参加資格 (1) 市内に在学している小学校 4 ～ 6 年生で保護者の許可を得ている者。
(2) 1 チームにつき、成人の責任者が必ず 1 人以上引率しなければならない。
(3) 同一選手を複数のチームに登録することはできない。
- 10 部 門 男子の部・女子の部（混合チームは男子の部とする。）
- 11 試合時間 リーグ戦は、1 5 分（ハーフタイムなし）とする。
ただし、決勝トーナメントは 1 0 分ハーフ、ハーフタイム 5 分とする。
- 12 試合方法 (1) 男女共に予選リーグを行い、各リーグ上位のチームが決勝トーナメントに進出し順位を決定する。ただし、(4) の場合を除く。

(2) リーグ数、各リーグのチーム数、決勝トーナメント進出チーム数については、申込チーム数によって事務局で決定する。

(3) リーグ戦の順位は、勝ち点制によるものとし、勝ちを3点、引き分けを1点、負けを0点として計算し、決定する。

なお、勝ち点が同じ場合は、得失点差、総得点、直接対決の結果、監督によるジャンケンの順で決定する。

(4) 【単一部門での参加チームが5チーム以下の場合】

参加チームの総当たりによるリーグ戦で順位を決定する。

- | | | |
|----|--------------|--|
| 13 | 申込期限 | 令和6年10月11日（金）
（指定の申込用紙をスポーツ振興課へ提出） |
| 14 | 監督会議
及び抽選 | 令和6年10月30日（水）午後3時から
中部地区会館401会議室で実施 |

図書館除籍資料の無償配布について

1 趣 旨

武蔵村山市立図書館資料廃棄基準（令和 3 年 4 月 8 日施行）に基づき除籍した資料を、市内の公共施設や市民に無償配布し、資料の再活用を図るもの。

2 日時及び対象

(1) 11月14日（木）及び15日（金）

対象図書：児童書

対 象 者：市内小中学校、児童館等の公共施設、市内幼稚園・保育園

(2) 11月16日（土）から30日（土）まで

対象図書：一般書及び児童書

対 象 者：市民（在勤・在学者含む）

3 場 所

各図書館

4 配布資料数

合計約 7, 500 冊